

スイス旅行で出逢ったきのこ

氏家 文憲

2013 年末、菌類・自然史洋書通信販売の佐野書店（店主は当会会員の佐野悦三さん）から「スイス菌類図鑑」全六巻を、清水の舞台から飛び降りるような思いで購入したものの、重量 8.6 キログラム・価格 10 万円余の大書を一向に活用することなく本棚に眠らせるばかり、「もっと他に買うものあったんじゃないの？」と家人にさんざん嫌味を言われてもじっと我慢、耐えに耐えてきましたが、2014 年の夏にスイスに出かける機会があり、ようやく出番と相成りました。

旅行日は 8 月 1 日から 10 日間、アルプスの 5 大名峰を眺め、2 つの絶景列車に乗るという普通の団体観光旅行でした。仲間の皆さんは、マッターホルンなどアルプスの高峰が目の前に広がる絶景に感激し、エーデルワイスをはじめ可憐な高山植物の花の競演に感動の溜息を漏らすなど存分にスイスの旅を楽しまれたようですが、私はと云えば、ひたすら植え込みや林の中を覗きに行き、道端や草薺のあちこちにも気を配るの連続、最初から最後まで地面ばかり眺めているので、「何しにスイスに来たの？」と、家人はじめ同行の皆さんの大いなる顰蹙を買いました。

まあそれでも 30～40 種のきのこに出逢うことができ、ベニテングタケなど日本でも見られるきのこはその場で同定できましたが、帰国してからスイス菌類図鑑（以下単に「図鑑」と表記）を調べて同定できたものもあり、本棚の飾りから少しく実用の域に達し、若干

面目を施しました。スイス旅行記並びに各地で出逢ったきのこについては、ブログ「楽山楽水日記」に詳述してあります。そちらもご覧いただければ幸いです。

サース・フェーで出逢ったきのこ

4000m 峰 13 座のミシャベルアルプスにとり囲まれるサース・フェー村（標高 1800m）を散策中に逢ったきのこは 4 種、ササクレヒトヨタケ（写真 1）とサケツバタケ？とイグチの仲間とキシメジの仲間。

ササクレヒトヨタケは日本国内でも見たことがないだけに嬉しい出逢い。傘の長さは 20 cm もある大型菌、まるで秋田の郷土料理きりたんぽの様でした。



写真 1

ブルーメンタールで出逢ったきのこ

ユングフラウ三山を望むアルメントフェー展望台（標高 1907m）からブルーメンタ

ール（花の谷）経由でミューレン（標高 1650 m）へ下るハイキングの途中、モミを主体とする針葉樹林帯で出逢ったきのこは5種類。日本のヤマドリタケモドキに、匂い・柄の白色の縞目模様がそっくりの、*Boletus pinophilus*と思われる大型菌（写真2）と、アカハツモドキ、ガンタケ、キカラハツタケ、ベニテングタケ。スイスのきのこは同じ種類であっても日本のものより大型に育つようです。



写真2

ラウターブルンネンで出逢ったきのこ

トリュンメルバッハ滝の見物の帰り、ラウターブルンネン村（標高 800m）のメインストリートに面した駐車場の立木に、サルノコシカケ科の大きなきのこが傘を広げているのを見つけました。近づいてみるとアミヒラタケかタマチョレイタケのような感じ、傘の直径は優に 50 cm くらいあります（写真3）。



写真3

図鑑で調べると、学名は *Polyporus squamosus*、堅果（どんぐり）の成る硬木に寄生し、公園でも見られる普通種のようなです。

マイエンフェルトで出逢ったきのこ

ハイジの里マイエンフェルトの標高は 500 ~ 600m、牧草地や広葉樹の森には大型のイグチがたくさん出ていました。特に発生数が多いのがイロガワリの仲間、図鑑との絵合わせではヤマドリタケ属の *Boletus luridus*（写真4）のようでした。他には、コフキサルノコシカケ、スエヒロタケ、ニセショウロ属、ハラタケの仲間など全部で8種との出逢いがありました。



写真4

シャッツアルプで出逢ったきのこ

シャッツアルプはダヴォスの北面に連なる 2500m 級の山々の中腹にある標高 1860m の展望台、今が発生の最盛期らしく、高山植物園を巡る遊歩道の道端に色々なきのこが見られました。まずイグチの仲間が5種、うち4種はヌメリイグチ属、残る1種はヤマドリタケ属のイロガワリの仲間であり、図鑑と照らし合わせた結果、ヌメリイグチ属のうちの2種は *Suillus sibiricus* と *Suillus viscidus* と思われました。次にフウセンタケ科が4種、フウセンタケ科の同定は難しくササタケ以外はお手上げです。更にアカハツモドキ、クギタケ属の *Chroogomphus helveticus*、シシタケ（写真5）、シロハツ、シロタモギ

タケ属?、スエヒロタケ、ヌメリガサ科の *Hygrocybe lacmus*、ハラタケ属、ベニテングタケ、ホコリタケなども見られました。



写真5

セルティックで出逢ったきのこ

ダヴォス近郊、ヤコブスホルンとリネルホルンの谷間にあるセルティック村は標高が1800m、村の中央を清冽な谷川が流れ、緩やかな傾斜の牧草地が広がっています。放牧牛のカウベルの音が山峡に響き渡る昔ながらの素朴な村は、まさにアルプスの谷アルプスの村、何とも言えない風情を醸し出していました。出逢ったきのこはアキヤマタケのみ、景色や花に見とれて、肝心のきのこを熱心に探さなかったせいもあります(写真6)。



写真6

ダヴォスの街中で出逢ったきのこ

世界経済フォーラム(ダヴォス会議)が開かれることで有名なダヴォスは、標高 1560

mの高原リゾート、街中にも緑が溢れています。ホテル・ゼーホフの敷地内と宿泊したホテル・ベルベデーレ前の公園で出逢ったきのこは、アセタケ属不明種、キシメジ属の *Tricholoma pardalotum*? (写真7)、ザラミノシメジ属の *Melanoleuca substrictipes*、ヌメリイグチ属の *Suillus sibiricus* と思われる4種でした。



写真7

おわりに

野生の姿を見ることは難しいと云われるエーデルワイスとの出逢いもあり、何よりも天候に恵まれ、沢山のきのこにも出逢えた楽しい旅でした。スイスでは山岳鉄道やケーブルカー、ロープウェイ等を利用すれば労せずして標高 3000mを超えるアルプスの頂や中腹に立つことができます。そこから四通八達するトレッキング道を辿れば、私のような年寄でも山下りハイキングを楽しめ、雄大な景観と可憐な高山植物、(日本では)珍しいきのこに接することができます。スイスは滞在費(ホテル代、交通費、諸物価)が高く、年金暮らしの身分で実現できるかどうか分かりませんが、今回は個人旅行で訪れ、一箇所の村に10日間ほど滞在し、じっくりきのこ観察を試みたくなりました。その前にNHKラジオ講座でドイツ語会話を勉強せねばなりません・・・。